

神戸スイーツ・コンソーシアム

第6回チャレンジジド・プログラムが開講

初回講師にサ・マーシユ西川功晃氏

社会福祉法人フロップ・ステーション(竹中ナミ理事長)と日清製粉(大枝宏之社長)が主催する神戸スイーツ・コンソーシアムの第6回チャレンジジド・プログラムの開講式と第1回講習が、6月15日に東京・日本橋の日清製粉・小網町加工技術センターと、仙台市若林区の東北石川食料・加工技術センターで開催された。



山田貴夫部長



八木淳司氏



西川功晃氏

れ、真剣に取り組み各会場の様子が一方の会場にも映し出された。開講式には、第92代内閣総理大臣を務め、現在は副総理に加え財務大臣、金融担当大臣も兼任する麻生太郎氏をはじめ、多数の来賓が各会場に駆けつけた。

師の八木淳司氏が、同プログラムの意義や経緯を説明。「最初は一人でスタートしたが、次第に色々な人が集まり、賛同してくれる人が増えてくれる人が増えてきた。これからも継続して取り組んでいきたい」と述べた。また日清製粉の山田貴夫東京営業部長は「社員全体のモチベーションも上がり、小麦粉の開発などにもプラスとなっている」と

話した。同社もチャレンジジドと共成長していると述べた。

第1回の講習で講師を務めたのは、サ・マーシユの西川功晃氏。また会場には、ノリエットの永井紀之シエフも応援に駆けつけた。西川シエフは記者発表の席で「受講するチャレンジジド達が、隠されていた才能を製パン・製菓を通して発見し、発揮できれば良い。社会の中で十分やっていけない、そのことが伝えられるだけでも意義のあることとした。

第1回の講習では、米粉と小麦粉を1対1で使用し、ハート型に成形した「ハートのプチパン(モワチエ)がテーマ。西川シエフが呼びかけ行われている「ハートブレッドプロジェクト」を意識したアイテムとなっている。同プロジェクトは、各店舗がオリジナルのレシピで焼いた「ハート型のパン」を販売し、その売り上げの一部を、特定災害や寄付を必要としている地域・団体に対しプロジェクトを通して寄付するといったもの。西川シエフはこのアイテムを学び、製パン技術を高めるとともに、販売することで「ハートプロジェクトプロジェクト」にも参加してもらえればと呼びかけた。

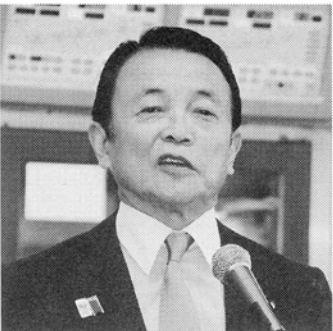
神戸スイーツ・コンソーシアムは「スイーツの世界で活躍するチャレンジジド(障がい者)を生みだそう」を合い言葉に、プロジェクト・ステーション、日清製粉をはじめ、一流の製菓・製パン技術者、行政などが、業界の垣根を越えて、パートナーシップを組み、2008年6月に神戸で発足したもの。前回は、東日本大震災復興支援をテーマに掲げ、仙台会場も設置して被災地の就労支援にも取り組んでいる。



竹中ナミ理事長



大枝宏之社長



麻生太郎副総理

開講式では、いさづに立った竹中理事長は「上から手を差し伸べるのではなく、障がいの種類や程度は様々だが、強い意志、意欲を持つて努力し、その結果、社会の中で活躍し、更にその中から新しいものが生まれてくるのなら、大変良いことだ」と述べ、チャレンジジド達を激励した。

また開講式に先立ち行われた記者発表では、統括講



講師が手取り足取り、分かりやすく指導した